

令和8年度 1学期学校評価

伊予市立中山中学校 令和8年7月アンケート実施

【評定の基準】 A 目標を達成 B おおむね達成 C あまり達成できていない ※ 各評価資料の結果をもとに総合的に判断する。
--

【アンケートの評価基準】 ◎ 8割以上が肯定 ○ 6割以上が肯定 △ 6割未満が肯定 【アンケート】 1 よくできている 2 大体できている 3 あまりできていない 4 できていない 5 わからない
--

項目	小項目(重点目標) ＜担当＞	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	アンケート結果(%)					1,2の割合(%)	評価	平均	昨年
						1	2	3	4	5				
教育課程と学習指導	教育課程の編成と実施 ＜教務＞	年間指導計画を定期的にチェックし、授業時数の確保と学習指導要領の内容の完全実施に努めている。 目標値:学校教育法に示された授業時数を100%達成	A	＜教務＞ ・勤務形態の多様化や小学校との兼務などによる難しさがある中、特色ある学校行事との両立を図りながら、各教科において標準授業時数の完全実施を目指し、計画的に時間割を編成することができた。	時数集計票									
	確かな学力の定着と向上 ＜学力向上推進主任＞	授業を改善し、わかる授業、興味がもてる授業を展開している。大理解できている。 目標値:教職員、生徒の80%以上が肯定	A	＜学力向上・各教科＞ ・少人数の良さを活かし、生徒一人ひとりに寄り添った指導を展開できた。ICT活用や問いを深める授業を通して生徒の主体性を育むとともに、質問しやすい雰囲気づくりに努めたことで、疑問を放置せず分かるまで粘り強く学ぶ生徒が増加している。	教職員アンケート①	20.0	80.0	0.0	0.0		100	◎	90	100
					生徒アンケート①	40.0	40.0	20.0	0.0	0	80	◎		
		朝ドリル・補充学習・個人指導を充実させ、一人ひとりに応じたきめ細かな学習指導がなされている。 目標値:教職員、保護者、生徒の80%以上が肯定	A	＜学力向上・各教科＞ ・今年度は朝の時間を活用した「BHT」を新たに導入し、生徒の対話力向上や良好な人間関係づくりに成果が見られた。また、補充学習や個別指導の充実を図ることで、生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細かな学習指導を行うことができた。	教職員アンケート②	9.1	72.7	18.2	0.0		82	◎	87	95
					保護者アンケート①	16.7	72.2	0.0	0.0	11.1	89	◎		
					生徒アンケート②	60.0	30.0	10.0	0.0	0	90	◎		
		家庭学習の習慣が身に付いている。 目標値: 1年90分以上、2年120分以上、3年150分以上	C	＜学力向上・学担・各教科＞ ・学校評価のアンケート結果から、生徒自身は「家庭学習の習慣が身に付いている」に対して高い自己評価を示している一方で、実際の学習時間は不十分であり、教師や保護者の認識との間に乖離が見られる。生徒の多くは家庭学習の必要性を理解しつつも、「宿題以外の具体的な取り組み方」が分からないまま、結果として学習習慣の定着に至っていないことが主な要因と考えられる。今後は、家庭学習の必要性を再確認させるとともに、「何を・どのように取り組めばよいか」という具体的な学習方法を提示し、生徒が自発的かつ意欲的に取り組める仕組みづくりを推進していきたい。	教職員アンケート③	0.0	25.0	66.7	8.3		25	△	54	56
					生徒アンケート③	25.0	55.0	15.0	5.0	0	80	◎		
					家庭学習時間	～0.5	0.5～1	1～2	2～3	3～4	4～			
					3年生	22.0	11.0	44.0	11.0	11.0	0	△		
					2年生	0.0	14.0	86.0	0.0	0.0	0	△		
					1年生	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0	△		
		適切な量や内容の宿題が与えられている。 目標値:生徒の70%以上が肯定	A	＜学力向上・学担・各教科＞ ・80%の生徒が宿題の量を適切だと感じており、各教科で生徒の学習理解度に合わせて宿題を出せている。しかし、家庭学習では宿題以外していないという生徒も多く、宿題以外の学習の推進を図る必要がある。また、今の宿題量でも多いと感じている生徒もいるため、一人一人の学習状況に対応した宿題を出すことも必要だと考える。		少なすぎる	適切	多すぎる					80	92
					生徒アンケート④	5.0	80.0	15.0				◎		
	発達段階に応じた基礎学力が身に付いている。 目標値:全国学力調査などで全国平均値よりも上。		＜学力向上＞	学力テスト結果										
生き方を考える教育	心の教育の推進 ＜道徳推進教師＞	道徳の時間の指導が充実し、道徳的な実践力が育っている。 目標値:教職員、生徒の80%以上が肯定	A	＜道徳・学担＞ ・年間指導計画に沿って、道徳科の時間を毎時間確実に実施することができている。複数教員で授業を運営するチーム道徳を毎時間行うとともに、授業の相互参観を推進することで、指導力の向上を図ることができている。親子ふれあい道徳や全校道徳を効果的に取り入れることで、豊かな道徳性を養うための指導の充実を図った。	教職員アンケート⑧	66.7	25.0	8.3	0.0		91.7	◎	91	98
					生徒アンケート⑨	65.0	25.0	10.0	0.0	0	90.0	◎		
	進路指導 ＜進路指導主事＞	正しい勤労観・職業観等、将来の生き方や進路の適切な選択に向けて、機会をとらえて働きかけている。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定	A	＜進路・学担＞ ・進路学習において、各学年で系統的に進めることができている。 ・進路選択に必要な情報を機会があるごとに発信できている。	教職員アンケート④	25.0	75.0	0.0	0.0		100.0	◎	93	97
					保護者アンケート③	16.7	66.7	5.6	0.0	11.1	83.3	◎		
					生徒アンケート⑤	75.0	20.0	0.0	0.0	5	95.0	◎		
					地域アンケート②	61.5	30.8	0.0	0.0	7.7	92.3	◎		
	集団づくり ＜教職員＞	学級にはまとまりがあり、一人ひとりを支えあう雰囲気がつくられている。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定	A	＜学担＞ ・学級での対話活動などを充実させていることによって、生徒同士の対話が増え、よりよい雰囲気がつくられている。 ・道徳教育などを通じて、さまざまな力が育まれ、一人ひとりが支え合う雰囲気がつくられている。	教職員アンケート⑤	33.3	50.0	16.7	0.0		83.3	◎	91	100
					保護者アンケート④	16.7	77.8	0.0	0.0	5.6	94.4	◎		
					生徒アンケート⑥	75.0	20.0	5.0	0.0	0	95.0	◎		
	生徒指導と	生徒指導の充実 ＜生徒指導主事＞	気持ちのよいあいさつができている。 目標値:教職員、生徒の80%以上が肯定	B	＜生徒指導＞ ・挨拶の文化を一過性の取り組みで終わらせず、継続的に育てていきたい。 ・まずは教職員が生徒の手本となる挨拶を心掛ける。	教職員アンケート⑥	30.8	46.2	23.1	0.0		76.9	○	87
生徒アンケート⑦						30.0	55.0	15.0	0.0	0	85.0	◎		
地域アンケート③						61.5	38.5	0.0	0.0	0	100.0	◎		
毎日朝食をとり、服装等身だしなみを整え、時間を守るなど基本的生活習慣が身に付いている。目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定			A	＜生徒指導・保健＞ ・登校指導の際に生徒の様子を観察し、些細な変化も見逃さず温かい声掛けを行う。 ・気になることがある際には、家庭と細かく連絡を取り合い、協力体制を構築する。	教職員アンケート⑦	30.8	69.2	0.0	0.0		100.0	◎	95	92
					保護者アンケート⑤	21.1	68.4	10.5	0.0	0	89.5	◎		
					生徒アンケート⑧	55.0	40.0	5.0	0.0	0	95.0	◎		
定期的な教育相談やアンケートの実施などを通して、いじめ・不登校の早期発見と早期解消に努めている。目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定			B	＜生徒指導＞ ・教育相談や学校生活アンケートを実施している様子等をホームページで発信する。 ・日頃より、教員間での情報交換を密に行い、不登校生徒には、全教職員が一丸となって対応する。	教職員アンケート⑨	50.0	50.0	0.0	0.0		100.0	◎	88	98
					保護者アンケート⑥	11.1	66.7	5.6	0.0	16.7	77.8	○		
					生徒アンケート⑩	80.0	5.0	5.0	0.0	10	85.0	◎		
様々な機会を通じて生徒とかかわり、生徒理解に努めている。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定			A	＜教職員＞ ・登下校時や休み時間に全教職員で生徒の様子に気を配り、適宜温かい声掛けを行うことができる。今後も生徒の頑張る姿を認めながら、生徒理解に努めていく。	教職員アンケート⑩	50.0	50.0	0.0	0.0		100.0	◎	93	97
					保護者アンケート⑦	22.2	61.1	0.0	0.0	16.7	83.3	◎		
					生徒アンケート⑪	70.0	25.0	0.0	0.0	5	95.0	◎		
学校のきまりや生活目標が共通理解され、生徒に対する指導が徹底されている。悪いことをした生徒を指導してくれる。 目標値:保護者、教職員の80%以上が肯定		B	＜生徒指導＞ ・再度「学校生活に関する申し合わせ事項」の共通理解を図り、一貫した指導となるよう、指導した際には情報交換を行う。	教職員アンケート⑪	50.0	50.0	0.0	0.0		100.0	◎	83	98	
				保護者アンケート⑨	5.6	61.1	0.0	0.0	33.3	66.7	△			
先生はすべての生徒に、平等に適切な指導をしている。親身に対応してくれる。 目標値:生徒、保護者の80%以上が肯定	B	＜教職員＞ ・生徒一人一人の声にしっかりと耳を傾け、すべての生徒が安心して気持ちよく生活を送ることのできる環境を一層整えていく。	生徒アンケート⑫	75.0	15.0	5.0	0.0	5	90.0	◎	84	86		
			保護者アンケート⑧	11.1	66.7	0.0	0.0	22.2	77.8	○				

安全管理	生徒活動の 活性化 ＜特別活動主任＞	様々な体験活動を通して、思いやりや奉仕の心が育っている。 目標値：教職員、保護者の80%以上が肯定	A	＜特活・学担＞ ・人権・同和問題学習を積極的に行っていることで、思いやりの心が育ち、自分たちに行えることを進んで考え、行動しようとする心が育まれている。 ・総合的な学習の時間では、自分たちが社会の問題に目を向け、解決するために社会の一員としての自覚をもち、できることを考え、実行している、	教職員アンケート⑪	25.0	66.7	8.3	0.0		91.7	◎	93	100
					保護者アンケート⑩	11.1	83.3	5.6	0.0	0	94.4	◎		
		学校行事を通して、集団への所属感を深め、学校生活の充実につながるよう指導の工夫がなされている。 目標値：教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定	B	＜特活・学担＞ ・教職員一人ひとりが生徒をよく見て理解し、声掛けをすることで所属感の高揚や学校生活の充実を図っていきたい。 ・教職員同士の情報共有を密に行うことで、生徒理解を積極的に行い、全員の目で生徒を見守り、鼓舞していく。	教職員アンケート⑫	33.3	33.3	33.3	0.0		66.7	○	82	97
					保護者アンケート⑪	11.1	72.2	5.6	0.0	11.1	83.3	◎		
					生徒アンケート⑫	70.0	25.0	5.0	0.0	0.0	95.0	◎		
		部活動は生徒のために適切に行われている。 目標値：保護者、教職員の80%以上が肯定	B	＜部活動＞ ・適正な部活動数の設定や休日の部活動地域移行への実証事例等を推進していきたい。	教職員アンケート⑫	37.5	37.5	25.0	0.0		75.0	○	88	92
					保護者アンケート⑬	58.3	41.7	0.0	0.0	0	100.0	◎		
	学校安全の 推進 ＜保健主事＞	保護者・地域と連携し、地域ぐるみの安全確保に努めている。 目標値：生徒の80%以上が肯定	A	＜教頭・教職員＞ ・保護者・地域と連携できており、コミスクを通して、そのつながりがさらに密になり、安全確保ができています。	生徒アンケート⑭	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	100.0	◎	100	100
		生徒のけが、病気、事故等に適切に対処しているか。 目標値：教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定	A	＜保健・教職員＞ ・生徒のけがや病気、事故等に対して、教職員が連携し、状況に応じた適切かつ迅速な対応を行うことができています。 ・今後も安全管理や緊急時の対応体制の充実を図り、迅速で適切な対応を継続していく。	教職員アンケート⑬	50.0	50.0	0.0	0.0		100.0	◎	98	94
					生徒アンケート⑬	80.0	15.0	0.0	0.0	5.0	95.0	◎		
		校内安全点検を定期的 to 実施し、潜在危険の除去と教育環境整備に努めている。 目標値：教職員の80%以上が肯定	A	＜教頭・環境整備＞ ・校内安全点検を確実に実施し、教育環境の整備ができています。危険箇所や破損箇所等、市教委の協力を得て、可能な範囲で迅速に修繕できています。	教職員アンケート⑭	30.8	69.2	0.0	0.0		100.0	◎	100	100
					地域アンケート④	53.8	46.2	0.0	0.0	0.0	100.0	◎		
教職員の 資質向上	教職員の資質 向上 ＜教職員＞	きもちのよいあいさつができています。 目標値：教職員の80%以上が肯定	A	＜教職員＞ ・まずは教職員相互に明るい挨拶を交わし、生徒の手本となる姿を見せていく。	教職員アンケート⑯	69.2	23.1	7.7	0.0		92.3	◎	92	100
		来校者に対して、適切な対応を心がけている。 目標値：教職員の80%以上が肯定	A	＜教職員＞ ・今後も引き続き全教職員が来校者に気を配り、適切な対応に努める。	教職員アンケート⑰	61.5	30.8	7.7	0.0		92.3	◎	92	100
		健全な社会人として信頼にたる教職員となっている。見守ってくれる大人として信頼できる。 目標値：教職員、生徒の80%以上が肯定	A	＜教職員＞ ・毎月のコンプライアンスチェックの際に自らの姿を見直し、信頼にたる教職員であり続けるための努力を継続していく。	教職員アンケート⑮	23.1	69.2	7.7	0.0		92.3	◎	94	98
					生徒アンケート⑮	65.0	30.0	5.0	0.0	0	95.0	◎		
開かれた 学校づくり	保護者・地域 との連携 ＜管理職・教職員＞	学校の様子や、行事などについて家庭で話をしている。 目標値：生徒の80%以上が肯定	A	＜学担＞ ・学級通信や道徳通信などを定期的に発行していることが、家庭で学校の様子を話すきっかけになっていると考える。	生徒アンケート⑰	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0	80.0	◎	80	88
		生徒は地域行事に積極的に参加しようとしている。 目標値：地域の80%以上が肯定	A	＜教職員＞ ・地域行事が開催される際には、積極的に呼び掛けを行うなどして、生徒一人一人に地域の一員である自覚を高めさせる。	地域アンケート①	30.8	61.5	0.0	0.0	7.7	92.3	◎	92	-
		行事や参観日等、学校を開放し、開かれた学校づくりが行われている。 目標値：地域の80%以上が肯定	A	＜教頭＞ ・行事や参観日など、案内文書の配信や活動の様子等をメールやホームページを活用して周知したり、保護者参加型の内容になるよう工夫したりして、開かれた学校づくりができています。コミスクの積極的な参加によって、地域からの参加も増えている。	地域アンケート⑦	38.5	61.5	0.0	0.0	0.0	100.0	◎	100	-
		学校の様子や行事などが、学校だよりなどでよく知らされている。 目標値：保護者の80%以上が肯定	A	＜教務・教職員＞ ・学校便りに掲載する内容を工夫し、今後も学校の取組を積極的に発信する。	保護者アンケート⑫	72.2	27.8	0.0	0.0	0.0	100.0	◎	96	100
					地域アンケート⑤	69.2	23.1	0.0	0.0	7.7	92.3	◎		
		学校、PTA、地域はよく協力して活動している。 目標値：教職員、保護者の80%以上が肯定	B	＜教頭＞ ・学校とPTAの関わりは強く、行事を中心に、よく活動できている。地域の関わりについては、コミスクの導入後、コーディネーターの働きかけで、協力体制が確立できてきた。	教職員アンケート⑳	38.5	46.2	15.4	0.0		84.6	◎	85	96
					保護者アンケート⑭	33.3	61.1	0.0	0.0	5.6	94.4	◎		
					地域アンケート⑥	38.5	38.5	23.1	0.0	0.0	76.9	○		

